

薬歴を把握することで同効薬の重複を回避した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、患者の薬歴を把握することで同効薬の重複を回避したプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶ANCA 関連血管炎に対し精査加療目的にて入院

【新規開始薬】

プレドニゾロン錠 5mg 6錠/日

ボナロン経口ゼリー35mg 1個/回 1週間に1回



Eさん

ステロイドの副作用予防目的にボナロンが処方されている。でもEさんは、入院時に持参薬を確認したとき、4週に1回服用するミノドロン酸錠を服用していたはず。



薬剤師

プレドニゾロンとボナロンの処方が開始となるEさんですが、持参薬でボナロンと同じビスホスホネート製剤のミノドロン酸錠を服用されておられます。1週間に1回服用するボナロン経口ゼリーと違って、ミノドロン酸錠50mgは4週に1回の服用でよいので、ボナロンは中止し、ミノドロン酸錠の服用を継続するのは、いかがでしょうか。



医師

すでにビスホスホネート製剤を服用されていたのですね。最近の処方しか確認できていなかったのも、見逃していました。では、ボナロンの処方中止し、ミノドロン酸錠の服用を続けてもらいましょう。ミノドロン酸錠はいつから服用すればよいですか？

Eさんは、毎月1日に服用されているそうなので、今月は服用済みです。次の服用は来月の1日の予定となっています。ちなみに、当院採用はリカルボン錠50mgになります。



その後ボナロンの処方は中止となり、ミノドロン酸の服用が継続となった。

患者の薬歴を把握することで同効薬の重複を回避し、適切な薬物療法に貢献できた。